

郡上市の国民健康保険の財政状況

依然として続く赤字体質

国民健康保険の 予算規模

郡上市の国保予算は、歳入歳出ともに概ね50億円です。歳入の約4分の1が国保税（約12億円）、残りは国や県等の負担金や交付金で賄っています。

一方、歳出の約7割（約34億円）が公費で支出する保険給付費となつています。

国保の財政は、保険給付費の増減による影響が大きく、その主な歳入である国保税は国保事業を運営するための大切な財源になつています。

国保税は減少傾向

現在の国保税率は、平成23年度の国保税の引き上げ以降据置きとなつています。当時、医療費が急騰する状況の中で、その後の膨大な保険給付費の財源を確保するため、国保税を引き上げさせていただきました。国保税が約3億円不足する見込みであり、かなりの引き上げが必要

要でしたが、それを最小限に抑えるという配慮から、国保税を10%引き上げることで1億円を確保し、一般会計からの法定外の繰り入れで1億円、そして基金の取り崩しで1億円を負担し合うことで3億円の財源を確保することとしました。

しかし、被保険者数は減少傾向にあり、課税所得基準額も横ばいにあることから、国保税は年々減少しています。

基金は回復するも
実質の収支は赤字体質

基金は回復するも 実質の収支は赤字体質

平成22年度後半の医療費の伸びが鈍化したことや、平成23年度の医療費の伸びが予想を下回ったこと、そして一般会計から毎年1億円を繰り入れてきた効果により、国保の税率を改定することなく、平成24年度において3億円の基金を積み立てることができ、基金総額は4億3千万円までに回復することができました。

しかしながら、国保会計の財政運営を判断する実質単年度収

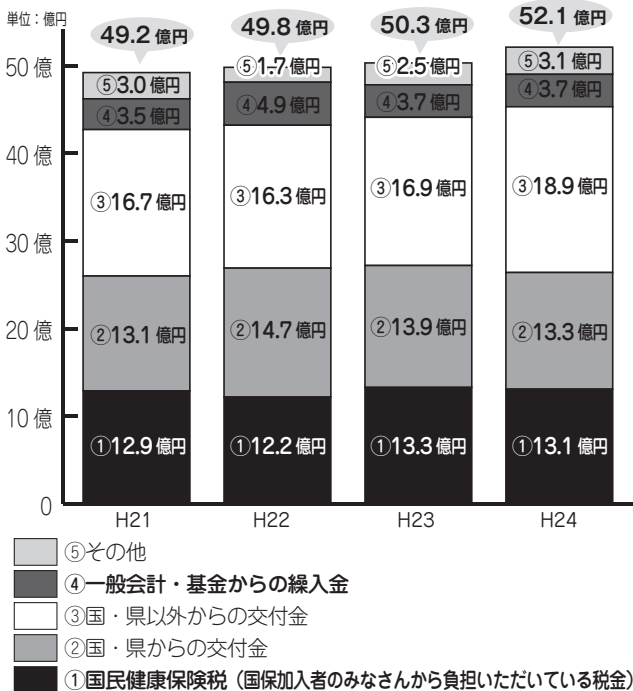
支（※1）は下図のとおり、赤字体質が続いています。
※1：実質単年度収支＝積立金、繰越金、基金繰入金、その他の繰入金を除いて、単年度の収支がどのようになるかをみるもの。

財源不足は基金と 一般会計から

国保税の引き上げ効果が年々下回っている状況下において、1人当たりの医療費は伸びてきていることから、平成26年度は約1億5千万円の財源不足が見込まれます。この不足分を補うため、国保税の引き上げを行うことなく、一般会計から7千5百万円の繰り入れと基金から7千5百万円の取り崩しで補うこととしました。国保財政を安定して維持するためには、国保税の引き下げる状況にはありませんでご理解をいただきたいと思います。

健康福祉部保険年金課
67・1822

国民健康保険特別会計の歳入推移



国保の厳しい財政状況 (実質単年度収支の状況)

